

遺族関係者ら 603 人が参列 忠霊塔で戦没者追悼式を開催

10月7日、戦没者追悼式が忠霊塔前広場で開催されました。塔には、約1600人の戦没者が祭られており、式には603人が参列。遺族を代表して遺族協会の殿所頼明会長が「平和な社会の繁栄は英霊の尊い犠牲があったからこそ。そのことを忘れず暮らしていきます」とあいさつしました。



式典では、永久津小の東永稔蘭さん（写真右上）と細野中の永井智葉さん（同左）が「平和への想い」の作文を朗読しました



法曹有資格者の山崎法務専門監（左）、津田井法務専門主査（右）。2人は総務部に所属し、業務にあたります

行政の法的な対応を支援する 市初「法曹有資格者」採用

10月1日、法曹資格を持ち、弁護士の実務経験がある法曹有資格者として、山崎直樹さん、津田井保乃さんを採用しました。任期は平成31年9月30日までの3年間。今後、法律に関する専門的な能力や経験を生かして、市の法的課題などへの対応を強化し、市民サービスの向上に努めます。

取り組みを紹介します

きずな協働体 今月は、西小林地区

全国公民館研究集会で発表

8月25～26日に宮崎市で「全国公民館研究集会宮崎大会」が開催されました。全国から1600人の参加があり、その分科会（約800人参加）で貴嶋憲太郎会長が「こばまちづくり協議会」の活動について発表しました。

また、8月20日には、宮崎市青少年育成連合会

視察団（19人）の視察を受け入れ、私たちのこれまでの活動を紹介し、意見交換を行いました。全国集会の後には参加した団体からの視察申込みがあり、活動がPRされる機会が増えています。

他団体との交流も深めながら今後の活動を充実させていきたいと考えています。



新しく青年部会が発足しました。若い力で盛り上げていこう！

青年部会会長 福永正平さん

特産品「ナシ」の出来上々 新興・新高の品評会開催

9月28日、西諸県農業改良普及センターで市果樹農業振興推進対策協議会とJAこばやし梨ぶどう生産部会によるナシの品評会が開催されました。【以下結果・優等および金賞のみ】◆新興：協議会…小原修一さん/JA…小原修一さん ◆新高：協議会…柚木崎俊博さん/JA…種子田健さん



同協議会の前田博俊会長は「今年は、糖度が高く収量も多かった。多くの人に特産のナシを味わってほしい」と話していました



代表取締役の伊藤壽朗さん（右）は「信頼される企業となって、市に貢献したい」とあいさつしました

出の山名水ホテル館内 市内初のコールセンター開設

10月6日、秘書センター株式会社の企業立地調印式が行われました。同社では事業拡大に伴い市内初となるコールセンター「宮崎小林コンタクトセンター」を出の山名水ホテル館内に開設。11月から操業を開始します。当初20人程度の雇用が見込まれ、今後の雇用創出も期待されます。

食を通して地域活性化 甲斐崇悟さんが協力隊に

地域活性化と定住・定着を目的とした総務省の「地域おこし協力隊」事業で、甲斐崇悟さんを隊員として委嘱しました。前職は、愛知県で調理師としてレストランに勤務。10月から地方創生課に所属し、地域の食材を使った新メニューの考案など食を通じた地域活性化などに取り組みます。



甲斐さんは「小林には魅力的な食材がたくさんある。多くの人に食べてもらえる価値ある料理を作りたい」と意気込みを語りました

東方の住民に地域支援員委嘱 きずな協働体の設立目指す

9月23日、東方中学校区の15人に地域支援員を委嘱しました。地域みんなでまちづくりを行うきずな協働体の設立が目的。これから1年間、地域のあり方、実情に応じた地域の維持、活性化対策に関する話し合いを通して、地域資源の再発見などに取り組みます。



支援員を委嘱された森岡與津男さん（真方三区長）は、「一所懸命取り組んでいる他の地区に早く追いつきたい」と話しました

今年も赤い羽根共同募金はじまる

10月3日、赤い羽根共同募金厚生労働大臣メッセージ伝達式が市長応接室で行われました。社会福祉協議会種子田^{たねうだ}と市会長が来庁しメッセージを伝達。「地域福祉のために活用されるので、皆さんのご協力をお願いします」と話しました。



須木中生徒らパントマイムを体験

9月30日、須木中学校観賞教室で劇団「汎マイム工房」が道化師芝居を行いました。会場は須木総合ふるさとセンターで、生徒、保護者や地域住民ら63人が来場。劇の途中、生徒らも舞台上がりジャグリングやパントマイムを披露しました。



小林秀峰高生が市内12ヶ所を清掃

10月8日、小林秀峰高の生徒らが「感謝の大清掃」を行いました。いつもお世話になっている地域に感謝の気持ちを伝えることが目的。八幡原市民総合センターや小林駅周辺、文化会館など市内12カ所のゴミ拾いや窓拭きなどを行いました。



3種類のチョウザメ商品が完成

小林チョウザメ・キャビア協議会が、チョウザメを使った新しい商品として、カレー、中華丼、フレークを開発しました。10月7日、いこいの家で完成お披露目会を開催。同協議会や商工会議所、観光協会、市など約30人が参加し、新商品を味わいました。



異種3組織で合同訓練を実施

10月14日、消防・警察・市立病院が、合同で災害対応訓練を行いました。地震が発生し、倒壊家屋に負傷した被災者が取り残されたことを想定して訓練を実施。木佐貫幸男^{きさぬきゆきお}消防長は、「地域で災害に備え、生命を守りたい」と話しました。



福祉のまち目指し、福祉バザー開催

10月15日、市民体育館で第32回福祉バザーが開催されました。「お互いに助け合う心豊かな福祉のまちづくり」を推進し、住みよい社会環境を育むことが目的で、ボランティア団体など16団体が出店。バザーの益金は、福祉事業に役立てられます。



障がい者目線で歩道の安全性を確認

10月18日、市障がい者相談員協会が市内の歩道のバリアフリー点検を行いました。今年が初めての開催で、同協会の会員、市や県の職員など27人が参加。車イス体験などを行い、障がい者目線で歩道を歩くことで安全性などを確認しました。



霧島ジオパークの魅力学ぶ

10月18日、霧島ジオパーク講演会を開催しました。ジオパークの魅力と火山防災を学ぼうと、約170人が来場。三陸ジオパーク推進協議会の杉本伸一^{すぎもとしんいち}さんが登壇し、「ジオパークも地域防災も活動の中心は地域住民です」と参加者に呼びかけました。

